

# Beyondコロナ時代の新たな観光キャンパス 石垣・八重山

石垣市民会館大ホール 2024年2月21日(水) 開場 10時~17時15分終了(予定)

## 観光の未来を考える日

コロナ禍を越えて「観光が持つ力」や「観光による価値創造」を考えるキャンパス(学びの場)と位置づけ、「観光の未来を考える日」を開催します。観光に関する多様な講演プログラムと、沖縄県及び石垣市が導入を検討する宿泊税の必要性や使い道についてのパネルディスカッションで構成します。観光事業者・来訪者・地域(住民)が観光による恩恵や幸福度を持続的に高めていく観光まちづくりについて一緒に考え、学びましょう。

主催者挨拶 13:25 ~13:30



日本最南端の自然文化都市である石垣市は、美しい自然や独自の文化を有し、世界中から多くの方々にお越し頂いている観光地です。「観光」は、地域活性化と経済振興をけん引する重要な地域資源であることから本市では平成9年に「石垣市観光立市宣言」を定め、観光を総合産業と位置付けてきました。しかし、未曾有のコロナパンデミックの影響によって、観光産業は、厳しい状況におかれ、コロナ以前からの課題に対しても新たに向き合う必要があります。コロナ禍を越えて、観光のあり方へのような変化が起きているか?オーバーツーリズムが懸念され、レスポンスフルツーリズムが注目されるなかでの本質的なことは何か?幅広い観光領域について、素晴らしい講師陣およびパネリストのみなさまが登場します。是非、ひとつでも多くの講演プログラムにご参加頂けると幸いです。

石垣市長 八重山ビジターズビューロー会長 中山 義隆



司会 第43代ミス八重山 南十字星 大高 凛佳

1 限目 10:30 ~11:30(60分)

### ポストコロナの観光潮流

航空・旅行アナリスト 鳥海 高太郎



1978年千葉県生まれ。航空・旅行アナリスト、帝京大学理工学部航空宇宙工学科、共栄大学国際経営学部、川村学園女子大学生活創造学部観光文化学科非常勤講師。航空会社のマーケティング戦略を主研究に、自らも国内外を巡り体験談を中心に雑誌やテレビで情報を発信。4月に「コロナ後のエアライン」(宝島社)を出版した。YouTubeチャンネル「PTA鳥ちゃんねる」を配信中。

石垣島の魅力、観光で期待することは?

#### Charm of ISHIGAKI

旅行の醍醐味である「非日常」を日本国内で一番体感できる場所。リゾートはもちろん「食」も充実。

2 限目 11:35 ~12:05(30分)

### ツーリストシップ(旅行者の心得)から持続可能な観光を築く

一般社団法人ツーリストシップ代表理事 田中 千恵子



1998年千葉生まれ。19年京都大学在学中に一般社団法人CHIE-NO-WA(後のツーリストシップ)創設、代表を務める。卒業後は社会起業家として異例のプロ契約をダイドードリンコ株式会社と締結。現在は、一般社団法人ツーリストシップの運営を行い、ツーリストシップの普及に邁進している。2023年より同志社大学でも講義を持つ。また2023年のInternational Youth DayでDTTT社が選ぶ世界の若者9人のうち日本人で唯一選ばれた。そして観光業最高の功績を称えるX.Awards(同年12月イギリス開催)で、京都発のツーリストシップがアジア初受賞

#### Charm of ISHIGAKI

石垣市の魅力は、自然と暮らしの共存だと思います。石垣市の暮らしを生かした観光開発に期待しています。

▶ 昼休み12:05 ~13:25 会場の飲食情報やイベントは次ページをご参照ください。

3 限目 13:30 ~14:30(60分)

### 自主財源論 公益財団法人日本交通公社 観光研究部長 山田 雄一



- 観光地とは魅力的なライフスタイルが詰まったところ
- だから世界中の人々が憧れ、訪れたいと思う
- そう思われる地域に住まうことは、大きな喜びにつながる
- ライフスタイルを実現するには、標準以上に、様々な環境を高度に整備(または保全)していく必要がある
- そのためには、他地域以上に、資金と人材を確保し投入することが必要である
- 一方、通常の地方財政では、観光によって「豊か」になることはできない
- 観光振興を進めれば、進めるほど、地域住民は、そのしわ寄せを受けることにもなる
- ただ、20年前の制度変更によってこの矛盾を突破する方法がある
- それが「法定外税」による宿泊税という制度
- 住民が住民税を負担するように、来訪者にも一定の負担をしてもらうことで観光振興を地域財政に紐付けることができる
- これを地域づくりの財源とし、地域の持続的な発展につなげていくことが重要である

石垣島の魅力、観光で期待することは?

#### Charm of ISHIGAKI

恵まれた自然環境、交通インフラ、観光サービス事業者が集積した競争力の高い地域だと思っています。

### 観光目的税(宿泊税)導入にあたっての制度骨格(案)

確認事項	沖縄ツーリズム産業団体協議会 案								
1 税導入の目的	世界から選ばれる持続可能な観光地として発展していくことを目的に、安全・安心で質の高い沖縄観光の実現による満足度の向上、県民の観光への理解促進、観光産業の成長・変革、発展に繋がる施策に要する費用に充てるため								
2 税率・課税免除	○定率：宿泊料金1人1泊又は1部屋、1棟につき 3% (5%を望む意見もある) ○課税免除 (1)学校教育法第1条に規定する学校(大学を除く)及びこれに準ずる海外の学校の児童、生徒又は学生で、当該学校が主催する修学旅行に参加しているもの。 (2)前号に規定する学校が主催する修学旅行及び教育活動の引率者								
3 使途と条例	○重点使途項目 <table border="1"> <tr> <td>観光客・県民双方にとって安全・安心な満足度の高い受入環境の充実・整備</td> <td>利便性・満足度の向上 魅力あるコンテンツ創出 質の向上への取組 観光産業の生産性向上</td> </tr> <tr> <td>(2)魅力ある付加価値の高い観光地ブランドづくり</td> <td>人材確保・育成 マーケティング/ ブランディングの高度化 戦略的なプロモーション</td> </tr> <tr> <td>(3)県民理解の促進と調和による持続可能な観光地づくり</td> <td>県民理解の促進 観光関連産業への波及</td> </tr> <tr> <td>(4)観光危機への対応</td> <td>保全と活用のバランス 観光危機管理対応強化 基金制度</td> </tr> </table> ○財源の種別と条例について 財源の種別は「観光振興特定財源」とし、 条例については「税の使途」を定める ○基金について 社会環境の変化が早く影響を受けやすい観光産業の性質から迅速かつ柔軟な財源運用を可能とする「新たな基金」の設置。	観光客・県民双方にとって安全・安心な満足度の高い受入環境の充実・整備	利便性・満足度の向上 魅力あるコンテンツ創出 質の向上への取組 観光産業の生産性向上	(2)魅力ある付加価値の高い観光地ブランドづくり	人材確保・育成 マーケティング/ ブランディングの高度化 戦略的なプロモーション	(3)県民理解の促進と調和による持続可能な観光地づくり	県民理解の促進 観光関連産業への波及	(4)観光危機への対応	保全と活用のバランス 観光危機管理対応強化 基金制度
観光客・県民双方にとって安全・安心な満足度の高い受入環境の充実・整備	利便性・満足度の向上 魅力あるコンテンツ創出 質の向上への取組 観光産業の生産性向上								
(2)魅力ある付加価値の高い観光地ブランドづくり	人材確保・育成 マーケティング/ ブランディングの高度化 戦略的なプロモーション								
(3)県民理解の促進と調和による持続可能な観光地づくり	県民理解の促進 観光関連産業への波及								
(4)観光危機への対応	保全と活用のバランス 観光危機管理対応強化 基金制度								
4 報償金とシステム導入負担	徴収した金額の2.5% ※導入から5年間は3.0% 加えて、システム導入費用の支援(補助)								
5 意思決定プロセス(会議体の設置)	沖縄観光振興戦略検討会議(仮称)を設置 観光客と直に接する観光事業者等から意見を吸い上げ、透明性のある、より効果的な事業展開を図るという観点から、沖縄県、OCVB、観光業界などを構成員とした「沖縄観光振興戦略検討会議(仮称)」を設置、事業検討、予算策定・決議、効果検証等を行う。なお事務局はOCVBとする。								
6 OCVBの役割	広域連携DMOには地域の主体・司令塔となり観光振興を遂行する役割があることから、県とOCVB(広域連携DMO)の役割を整理したうえで、観光業界及び地域観光協会等幅広い利害関係者と連携し、観光振興を行うための財源を広域連携DMOであるOCVBへ充当する								

14:40 ~15:40(60分)


パネルディスカッション


## 観光財源と持続力を担保する財源使途及び ガバナンス


主題:観光宿泊税 ファシリテーター:公益財団法人日本交通公社 観光研究部長 山田 雄一

▶ 観光は我が国の成長戦略の柱であり、人口減少・少子高齢化に直面するなかで、観光によって生み出される国内外からの交流人口に伴う旅行消費は地域経済に大きな効果をもたらします。一方で、観光消費による経済波及効果は、観光消費額の1.3倍から1.7倍の間に収まるといわれます。また、利益が地域に落ちていないという統計結果があります。そういった限界や課題を踏まえて、観光による恩恵を持続可能なものにするためには、来訪者、地域住民、観光事業者が最大限に幸福になる仕組みづくりが重要であり、そして観光財源の確保について考えることも不可欠です。この観光財源について現在、石垣市は、沖縄県や県内の導入自治体と宿泊税の導入を検討しています。令和6年度に具体的な取り組みに着手する計画です。パネルディスカッションでは、「持続可能な観光を担保する観光財源とその使途及びガバナンス」と題して、論点や課題について意見交換します。

### パネリスト

 山田 桂一郎  
JTIC.SWISS代表  
八重山ビザースビューロー  
有識者


 下地 芳郎  
沖縄観光コンベンションビューロー  
会長


 赤城 陽子  
石垣島  
ビーチホテルサンシャイン  
代表取締役副社長・総支配人


2005年に観光カリスマ(内閣府・国土交通省(観光庁)・農林水産省認定):「世界のトップレベルの観光ノウハウを各地に広めるカリスマ」として、これまでの欧州を中心とした環境保全(環境保護・保全活動プログラム、環境教育、環境アセスメント等。海外在住者として初めて日本の環境省に登録された環境カウンセラーと世界各地における滞在プログラム・ツアーの実施と観光・集客交流の事業化、マーケティング、ブランディングの経験を活かし、観光・地域振興 まちおこし・自立型地域経営、人材育成、中心市街地・商店街活性化、一次産業支援等に関する講演やセミナーの講師として全国各地から招聘されている。2011年には週刊日経ビジネス誌において「次代を創る100人」の一人として選出された。民間企業やNPO法人の他にも、多くの省庁や地方自治体の委員、プロデューサー、コーディネーター、アドバイザーを務め、大学や高等教育機関でも教鞭をとっている。

1981年に明治大学法学部を卒業後、沖縄県庁に入庁。初代香港事務所長として、香港を中心にアジア全般の観光客誘致などを担う。観光振興課長、観光企画課長、観光政策統括監などを歴任。2001年のアメリカ同時多発テロ、2011年の東日本大震災等の影響で落ち込んだ沖縄観光の立て直しを担う。2013年3月に退職し、琉球大学観光産業科学部教授に就任。学部長、研究科長を歴任。2019年6月に沖縄観光コンベンションビューロー会長に就任。  
＜その他役職＞  
公益社団法人日本観光振興協会理事  
沖縄ツーリズム産業団体協議会会長  
沖縄県観光協会等協議会会長  
一般社団法人沖縄観光DX推進機構理事長  
琉球大学国際地域創造学部客員教授 等

石垣市商工会観光部会長、JTB協定旅館ホテル連盟沖縄支部連合会理事、NTA協定旅館ホテル連盟本部営業推進委員、東武トップツアーズ協定旅館ホテル連盟沖縄支部理事ほか  
＜特徴ある取り組み＞ 光害対策の取り組み(SDGsの一環として)  
平成20年ホテルのナイトコンテンツとして星空ツーリズムを展開させることに伴いホテル敷地内の街灯に光害対策を施す  
平成28年石垣島国立天文台10周年祝賀会にて星空観光及び光害対策の取組について受賞  
平成30年TBS「世界ふしぎ発見!」で当ホテルの「夜空を照らさない照明デザイン」が紹介された  
令和4年修学旅行の事前学習として光害講話を開始  
令和6年照明設計デザイナー面出薫様を招聘しセミナー及びワークショップを開催予定(星空協力会主催) 等々

 高橋 秀明  
石垣シーサイドホテル  
取締役総支配人

 仲里 一也  
イルマーレウナリザキ  
代表取締役

 綿貫 周平  
八重山ビザースビューロー  
代表取締役

石垣市観光交流協会副会長、近畿日本ツーリスト八重山会会長  
出身地: 埼玉県草加市  
※石垣在住30年目!  
※人と接することが好き!  
※チームで動くことが好き!

竹富町観光協会青年部部長を5期9年目  
1982年西表島生まれ、西表島育ち。  
島の中学校を卒業後、親元を離れ千葉の高校へ進学。高校卒業後、埼玉の大学へ20歳で熊本のダイビングショップへ就職。22歳で島へ戻り、現在のホテルイルマーレウナリザキのオーナーである父とホテル構想を考え、2007年24歳の時に代表取締役としてホテルをOPEN。同時に1999年から父が営む「ヴィラうなりざき」の両方を経営。

1989年生まれ、群馬県昭和村(人口7,000人)出身。大学卒業後は、群馬県の地域活性化に取り組むため群馬県庁に入庁。地域づくりの合意形成に関心を持ち、ワークショップやファシリテーションについて学ぶ。石垣島出身の妻と結婚し、2019年に移住。2022年から日本旅行沖縄に在籍、八重山ビザースビューローへ出向。現在は事務局長として観光を通じた地域づくりに日々試行錯誤中。

15:50 ~16:10(20分)

## 未来につなぐ持続可能な観光 ～地域の観光産業と連携した石垣島を巡る旅を通して

沖縄県立八重山商工高等学校 マーケティングリサーチ部

▶ 新石垣空港開設後に入域観光客数が急増した一方、観光関連産業で慢性的な人手不足となり、コロナがさらに追い打ちをかけた。その課題解決のため、地元の観光バス会社と連携し石垣を訪れる修学旅行生向けにバスガイドに挑戦した成果を報告。また、オフシーズンである冬には、ミンサー機織り体験やユニークメニューの視点でビーチで三線演奏など地元向けのツアーも実施し、年間を通じて石垣の魅力ある場所を活用した「質の高い観光」のコンテンツづくりを発信した研究発表の内容をご紹介します!

石垣島の魅力、観光で期待することは?

Charm of ISHIGAKI

昔からの伝統文化・芸能・地域行事等が残り、継承されているところが石垣の魅力。観光地向けになりすぎず、地元住民も楽しめる場所がほしい。石垣島にいたい、好きだという気持ちを地元の人が持ち続けることが大事。それがないと、地元の人が離れていってしまう(戻ってこないのではないかと心配)



令和5年度第26回沖縄県高等学校生徒商業研究発表大会 最優秀賞(出場校7校→九州大会派遣へ★大会4連覇  
令和5年度第22回九州地区高等学校生徒商業研究発表大会 優良賞6位/出場校9→開催県(沖縄県)最上位校として全国大会出場  
令和5年度第31回全国高等学校生徒商業研究発表大会優良賞(最優秀1、優秀3、優良5)/参加校20校  
全国大会における、八重山商工高校の受賞は、沖縄県として10年ぶり2回目の入賞である(初受賞は第21回大会において浦添商業高校が優秀賞を受賞)

16:15 ~17:15(60分)

## 観光地方都市における公共交通の未来展望

一般社団法人沖縄オープンラボラトリ 理事 山崎 里仁

▶ 地域の価値はエリアの移動可能度で大きく変わります。前世紀の日本は「鉄道資本主義」が都市の価値をつくってきました。これからは交通DX・自動運転・AIが新しい国土の価値を創出する時代。少子高齢化による急速な人口減の中で全ての地域を育む事は、残念ながら現実的ではありません。未来価値を生み出せる地域に集中する必要があります。石垣は大きく飛躍し得るエリア。新時代のスマートな移動を提供するエリアを創出するための戦略をお話します。

石垣島の魅力、観光で期待することは?

Charm of ISHIGAKI

石垣は島なのに山もある! 高台からの絶景がある!  
最南端の天文台もある! 海と山と空! 全ての魅力を満喫したい!



1967年神奈川県鎌倉市生まれ。大学の専攻はニュートリノ観測。高校の先輩である小柴昌俊先生に憧れて研究室に所属するも研究者として大成せずドロボップアウト。1993年に日本で最初のコンシューマにインターネット接続サービス(ISP)を提供する事業を創業。Microsoftより資金を得てWindows95の拡販に伴い事業を拡大。後に事業売却し渡米。ITコンサルティングファームを創業し東証に上場。2000年G8サミットの名護市開催に伴い沖縄県の行政プロジェクトに関わるようになる。2012年からうるま市に建立されたデータセンターのITデザイン総指揮を担当。2013年5月に一般社団法人沖縄オープンラボラトリを設立。八重山観光・交通コンソーシアム有識者

喫茶イレブン(中ホール2階)  
11時~17時(予定)  
八重山そば、カレー



DOMINGO COFFEE10(中庭)  
10時~16時頃(予定)  
コーヒー、カフェオレ、焼き菓子



### 飲食情報 & 特別イベント

旅先クイズ  
10時~16時(予定)  
ツーリストシップブース

来場者をつくる観光アート  
10時~16時(予定)

キーボード演奏  
伊良皆 和子